

J TRUST LETTER

皆様と未来を描きます。



第39期 中間株主通信

2014年4月1日 ~ 2014年9月30日

- Contents
- » 私たちのこと、きちんとお伝えします!
 - » 株主の皆様へ
 - » 業績ハイライト
 - » セグメント情報
 - » 企業データ

私たちのこと、きちんとお伝えします!

Jトラストグループに対してたくさんのご意見、ご質問をお寄せいただきましてありがとうございます。私たちは、株主の皆様のお声を真摯に受け止め、誠心誠意ご対応させていただいております。ここで、皆様からよくいただくご質問に回答いたします。

Q1 株価が低迷しているのはなぜですか?

当社は成長過程にあり、事業基盤整備のため海外を中心に金融に限らずあらゆる分野でM&A等を実施しているため、企業としての形、方向性が見えづらい状態になっていることが要因のひとつにあると考えております。本誌でご説明いたします戦略を着実に実行し、**企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援をお願いいたします。**

Q2 前期までは7期連続増収増益でしたが、当第2四半期は減益となった理由は?

営業収益は着実に増加しておりますが、当第2四半期は親愛貯蓄銀行において不良債権の整理に伴い、貸倒引当金の積み増しや債権売却に伴う売却損等の損金の計上を行いました。これは、今後**M&Aや新規貸付による優良債権の増加を通じた資産規模の拡大や収益性の増大に向け、費用を先行計上したことによるものです。**

Q3 国内事業はどのような戦略を採っているのですか?

これまでM&Aや債権買取り回収を中心に収益を拡大してまいりましたが、有望な案件が少なくなっているのが現状です。そこで金融事業では、これまで培ってきた融資事業のノウハウを**信用保証事業に注ぎ収益の拡大を図るとともに、グループ内のノウハウを活かした新事業の展開**を検討しております。

Q4 なぜ韓国で事業を展開しているのですか？

韓国の金融市場ではかつての日本と同様に金融業界の再編が進んでおり、私たちが日本で培ったノウハウが十分に活かせるからです。日韓関係には政治的に複雑な要素もありますが、私たちは韓国の金融当局やグループ会社との間にとっても良好な関係を築いております。

Q5 東南アジアに進出したのはなぜですか？

東南アジアは、人口6億人超の巨大市場で、高い経済成長を背景に個人所得が増加しており、リテール・ファイナンスや不動産など、私たちの持つノウハウを活かした事業の拡大により、高い成長が見込める地域だからです。

Q6 ホテルやカジノ事業に目を向けているのはなぜですか？

ホテルとカジノ事業は相乗効果の高い事業であり、私たちの持つ不動産・アミューズメント事業のノウハウと、関連会社であるLCDグローバル・インベストメント社が得意とするホスピタリティ分野を活かしながら事業の拡大が見込める分野だからです。

Q7 介護事業に参入した背景を教えてください。

ホテルに加え、介護事業のホスピタリティのノウハウも吸収することで、ホスピタリティ分野を新たな成長の柱に育成したいと考えております。ゲームを活用した介護サービスの開発や、不動産事業のノウハウを活用した新しい介護施設の開発など、付加価値の高い介護サービスの提供が可能であると考えております。

株主の皆様へ



当社の株式を保有していただきありがとうございます。

現在、当社ではさらなる成長を目指すべく、海外を中心にM&Aや債権買取りを積極的に行い、事業基盤の強化を図っております。

現状の株価がライツ・オフリングの行使価格を下回っており、株主の皆様にはご心配をおかけしておりますが、我々の目指す方向へ着実に進んでおりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 藤澤 信義

新たなステージへの転換を目指して

私は、**チャンス逃さない迅速かつ積極的なM&Aと債権買取りを続けてまいりました。時価より安く購入し、それらを着実に回収することで収益規模と資産を拡大し、事業基盤を強化してまいりましたが、**今後、既存事業だけでは大きな飛躍は期待できません。私は、発想の転換と柔軟な経営判断により、さらに成長を遂げることのできる事業基盤を確立すべく、韓国そして東南アジア地域においてM&Aを実施し、全力で経営に取り組んでおります。

今後も企業価値を高め、株主の皆様のご期待に沿えるよう努めてまいりますので、引き続きご支援いただければ幸いに存じます。

本誌にて、新たなステージへの転換を目指した取り組みを改めて紹介いたしますが、まず、Jトラストグループの成長の源泉となったライツ・オフリングで調達した資金の活用状況からご説明させていただきます。

潤沢な資金力を武器に海外でM&Aを加速

Jトラストグループは、ライツ・オフリングで調達した976億円のうち、**これまでに466億円を活用**いたしました。

当第2四半期は、9月に発表したホテル事業を中心としたシンガポールの不動産開発事業者LCDグローバル・インベストメント社(LCD)の株式取得に係るJトラストアジアへの増資に64億円を活用いたしました。

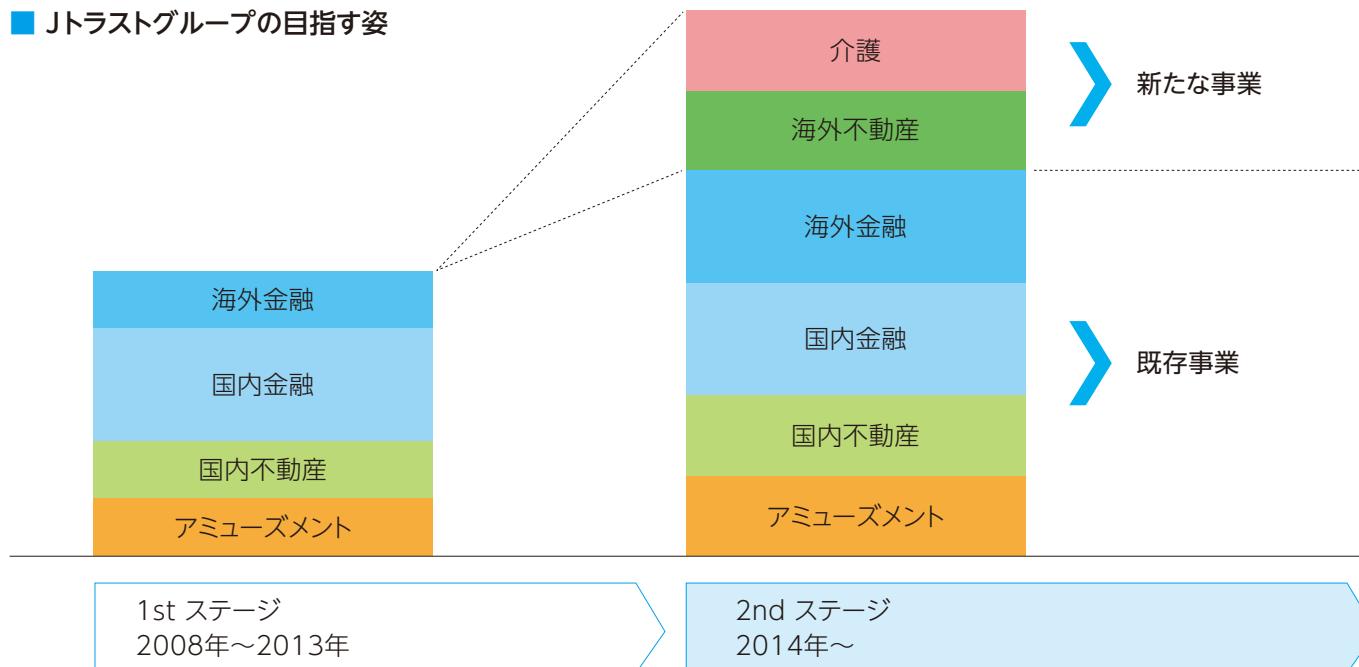
また、11月にはインドネシアの商業銀行であるムティアラ銀行についてインドネシアの金融当局より正式に株式取得に係る承認を得ており、6月に株式の取得を発表した韓国のスタンダードチャータードキャピタルとスタンダードチャータード貯蓄銀行は、韓国の金融当局の承認手続きを経たのちJトラストグループ入りを予定しているなど、着々とM&Aを進めております。

9月末時点で1,600億円を超える現預金があり、また、来年1月にはKCカードの売却により約400億円のキャッシュインが予定されており、これらのキャッシュは今後も効果的なM&Aに活用していく予定であります。

■ 調達資金の活用状況

Jトラストアジアの設立	100億円
(株)整理回収機構への返済	145億円
ハイキャピタル貸付買収	44億円
ケージェイアイ貸付金融買収	113億円
LCD株式取得に係るJトラストアジアへの増資	64億円
合計	466億円

■ Jトラストグループの目指す姿



KOREA

韓国金融市場の活性化に貢献



韓国市場でノウハウを活かす

韓国の金融業界では、現在、上限金利の引き下げや自己資本比率の改善のために、金融機関や債権の売り出しが増加しております。Jトラストグループは、**これまで日本で培ったM&Aや債権買取りのノウハウを韓国でも展開し、事業の拡大を図ることで、さらなる飛躍を目指してまいります。**

低金利の消費者ローン事業を拡大

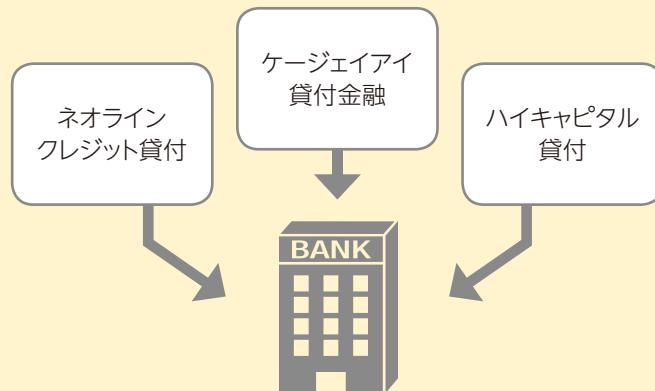
貯蓄銀行の使命は、低金利のサービスを提供するなどお客様のニーズをより満足させることです。貸付の源泉となる資金調達コストが貯蓄銀行では3%程度と低く、消費者金融より低金利のローンを提供することが可能です。このような中、親愛貯蓄銀行では6月にTVCMを開始し、ダイレクトマーケティングにも力を入れ、ローン事業を拡大しております。また、モバイルアプリを活用したローンの申し込みや残高・利用履歴の照会サービスを始めるなど、お客様の満足度の向上を図っております。

さらに、2014年8月には、グループ傘下である消費者金融

会社ネオオンラインクレジット貸付、ケージェイアイ貸付金融、ハイキャピタル貸付の貸付事業を親愛貯蓄銀行へ事業譲渡を行いました。貯蓄銀行への事業譲渡は韓国初の試みであり、Jトラストグループが金融当局との間に良好な関係を築いてきたことも、承認を得られた要因のひとつであると考えております。

今後も韓国金融市場の活性化に貢献し、成長し続けてまいります。

■ 貸付事業を親愛貯蓄銀行に事業譲渡



 **親愛貯蓄銀行**

韓国 No. 1 貯蓄銀行を目指して

Jトラストグループは、2014年6月に韓国スタンダードチャータードキャピタルとスタンダードチャータード貯蓄銀行の子会社化を発表いたしました。韓国金融当局の承認を経て、両社の子会社化が実現すると、**貸付債権と収益が拡大するとともに、貯蓄銀行の営業店舗数は19店舗、営業エリアは韓国全土の約70%になり、営業力の強化が見込めます。**



コラム: トップに聞く

親愛貯蓄銀行 ～第二フェーズに突入～

親愛貯蓄銀行が創業してから2年が経過いたしました。この間、「他山の石」という故事成語を念じ、第一フェーズとして歩んでまいりました。かつて、貯蓄銀行業界はプロジェクトファイナンスによる不良債権問題などにより苦戦を強いられましたが、そのような中、親愛貯蓄銀行は未来貯蓄銀行の行員のうち希望者の100%を受け入れ、韓国社会の雇用創出に貢献いたしました。また、全国15の本支店に20名の遵法監視代理人を配置して監査体制を強化し、徹底したコンプライアンスに基づいた経営を行うことで「理想的な貯蓄銀行のモデルケース」を目指してまいりました。

また、藤澤社長の「貯蓄銀行業ビジネスの成功モデルをつくり、低金利で庶民のニーズに合ったサービスを提供し、韓国経済に貢献する」という志を親愛貯蓄銀行も共有しており、30%未満の融資利率を適用する貯蓄銀行が皆無だった中で初めて利率20%台の商品を発売、さらに教育ローンとして利率5%の商品を開発するなど、韓国社会の実情に合わせた商品で地域社会と

もに成長するリーディングバンクを目指した結果、庶民金融の安定化に貢献したと評価されるまでになりました。

2015年は、いよいよ第二フェーズに突入の年となります。韓国金融業界では初めてとなる消費者金融会社との事業譲受による顧客基盤拡大や、Jトラストによるスタンダードチャータード貯蓄銀行の子会社化により営業エリアが拡大することによるマスマーケティング効果の拡大、その他キャピタル業界の規制強化による顧客の流入などのビジネスチャンスを逃さず、実益につなげてまいります。

今後も日本の良い文化や株主の皆様からの様々なご意見・アドバイスにも積極的に耳を傾け、第二フェーズにふさわしい営業活動を展開してまいります。



代表理事
ユン ビョンムク

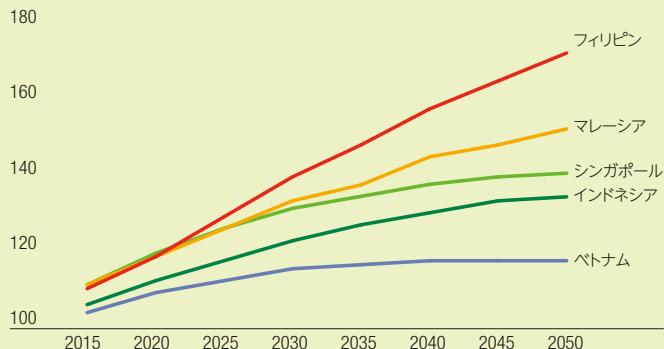
ASEAN

有望な東南アジア市場での挑戦

東南アジアで新市場を開拓

近年、人口、経済成長の伸びが期待される東南アジアですが、Jトラストグループは、2013年10月、シンガポールに子会社Jトラストアジアを設立し、**東南アジアでのリテール・ファイナンス、不動産、アミューズメント事業展開の可能性を追求**しております。東南アジアには、消費者ローンや無担保ローンなどのリテール・ファイナンスの商品が未成熟な国が多いため、Jトラストグループが持つファイナンスノウハウを活用し、東南アジアでの新市場の開拓を目指します。

■ 東南アジア諸国人口伸び率 (単位: %)



※2010年の人口を100とした場合の推移
出典:国際連合経済社会局人口部「世界人口推計2012年版」

インドネシアでリテール・ファイナンスを展開

東南アジアの中でも、インドネシアは総人口世界第4位の市場であり、今後の経済成長が期待されています。実際に、**中間所得層の増加により、リテール・ファイナンスのビジネスチャンスが大きく広がっており**、インドネシアの銀行は、リテール・ファイナンスへの参入を重点戦略としています。

このような状況下、当社は2013年12月にマヤパダ銀行の株式取得に続き、2014年11月にはムティアラ銀行の株式取得に係る承認を正式に得ました。

ムティアラ銀行は同国の主要都市にて62店舗を展開し、強力な営業基盤を有しており、外為や手形取引における同国の主要銀行のひとつであります。

今後、急速に拡大しつつあるリテール・ファイナンスにかかるニーズに総合的に応えることにより、インドネシア経済の一層の発展に貢献してまいります。

■ 世界の人口 (単位: 百万人) 出典:国際連合経済社会局人口部「世界人口推計2012年版」

1位 中国	1,359	4位 インドネシア	240
2位 インド	1,205	5位 ブラジル	195
3位 米国	312	10位 日本	127

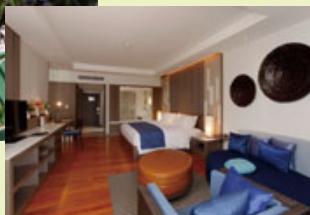
不動産事業・ホテル事業を次なる ステージの収益の柱に

Jトラストグループは、2014年9月にシンガポールの不動産開発事業者LCDグローバル・インベストメント社の株式を取得し、筆頭株主となりました。

LCDグローバル・インベストメント社は、タイ、イギリス、ベトナム、ラオス等に著名なホテルやサービスアパートメント*1を保有しています。ホテル事業は、**インターコンチネンタルグループのブランド ホリデイイン・リゾートプークェット、イギリスのクラウンプラザホテル**などを所有しており、安定した収益を上げています。また同社は、ホスピタリティ*2分野において私たちにない優れたノウハウを保有しており、ベトナム、ラオスで展開する**サービスアパートメントは、経済成長により世界各国から人材が集まることが見込まれ、今後も事業の**



タイ: ホリデイイン・リゾートプークェット



ラオス:
パークビューエグゼクティブスイート

拡大が期待できる分野です。

Jトラストグループは、LCDグローバル・インベストメント社の株式取得により、**高い経済成長と人口成長が見込める地域において不動産事業・ホテル事業のノウハウを新たに獲得し、次なるステージにおける収益の柱**としてまいります。

*1 サービスアパートメント:高級ホテルのような内装で自宅のようにリラックスして暮らせる期間限定の賃貸マンションのこと。家具、家電、食器などが備え付けられているほか、ハウスキーピングやフロントサービスが受けられる。

*2 ホスピタリティ:お互いを思いやり、手厚くもてなすこと。ホテル経営にとって欠かせない基本精神。

グループ企業のノウハウを活かせる カジノ事業に参入

子会社のアドアーズが、2014年9月に韓国高級カジノ施設「マジェスターカジノ」の運営会社を傘下に持つJBアミューズメント株式会社 (JBA) の第三者割当増資を引き受け、9.49%の株式を取得いたしました。

日本におけるアミューズメント業界は、昨今のスマートフォン向け無料ソーシャルゲームの浸透などにより、厳しい経営環境が続くものと考えております。このような中、今後アミューズメント事業の業態転換や新規事業の創出にあたり、JBAグループとの協力関係により業容拡大に努めてまいります。



韓国:
マジェスターカジノ



JAPAN

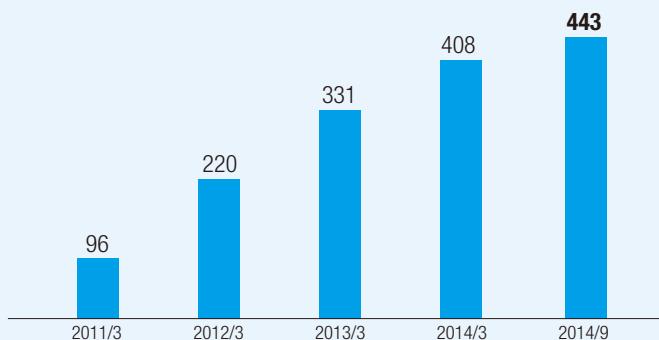
国内金融の取り組みと新たな展開

独自のサービスで信用保証事業を展開

Jトラストグループは、創業以来培った与信審査ノウハウを活かし、銀行に代わって貸倒リスクを負う信用保証事業を展開しております。当社は、傘下の**日本保証の顧客を提携銀行に紹介する集客支援(マーケティング)**や**人材派遣などの独自のサービスを展開し、他社との差別化**を図ることで、提携金融機関との信頼関係を構築しております。

2014年9月末の信用保証残高は443億円となっており、今後も、既存提携先との関係を強化するとともに、西京銀行と開発した賃貸住宅ローン保証に続く新商品の開発も積極的に進めてまいります。

■ 債務保証残高 (単位: 億円)



サービス * 事業で次のチャンスを狙う

現在、国内の消費者金融会社は、そのほとんどがメガバンクの傘下に入っており、競争力を発揮するのが難しい状況です。今後、さらに貸出金利の低下が予想されるため、**当社が消費者金融事業で大きく成長することは見込めない**と考えております。

また、消費者金融各社は貸金業法の総量規制により、債権を減らしてきましたが、近年は銀行系ブランドが消費者ローン事業を積極的に展開しており、近い将来、不良債権が再び増加する可能性があります。このような状況が訪れた際は、Jトラストグループのサービスが持つ債権買取りノウハウが活かされますので、**事業機会を逃すことのないよう、市況の変化を敏感に捉えて**まいります。

*サービスとは: 法務大臣の許可を得た債権管理回収専門業者のこと





介護事業に参入し、さらなる成長を目指す アドアーズ

ゲームセンターやカラオケ店などアミューズメント事業を主力事業と位置づけ、消費税増税やスマートフォン等の無料ソーシャルゲームの普及により客足に影響を受ける業界環境の中でも確実に利益を出し続けているアドアーズは2014年11月、日本介護福祉グループの株式100%を取得し、介護福祉事業に参入いたしました。同社グループは**法人、個人含め約750ものデイサービス事業所を有し、「24時間絶え間なく、必要な量の良質で安価なサービスを、必要な時に必要な場所で提供すること」**を基本理念とし、高齢化社会の日本において社会インフラを整備し、地域密着のセーフティネットの一端を担っております。

アドアーズと介護事業は、一見つながりのないようにも見えますが、どちらもホスピタリティ事業に精通しており、今後はアミューズメント事業にて培った**「お客様目線に立った接客ノウハウ」**を介護事業と共有するほか、**ゲーム機を活用した認知症や運動機能の改善に向けた介護サービスの提供**などにより、**新たなコア事業の確立を目指し、成長を続けてまいります。**



接客と介護のホスピタリティ精神で、
新しいサービスを生み出します。

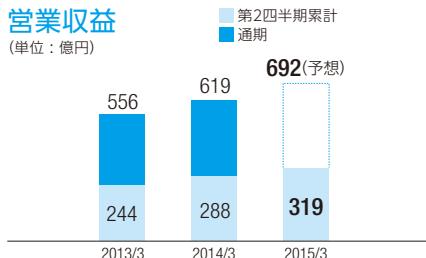


業績ハイライト

営業収益は前年同期比10.9%増、四半期純損失は37億円となりました。

営業収益

(単位：億円)

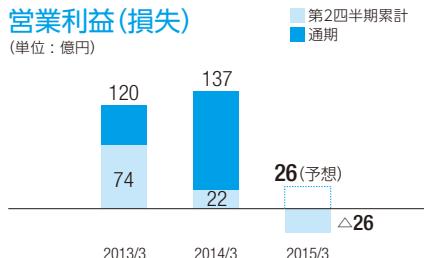


貸付金利息と銀行業における営業収益等の増加により2ケタ増収

韓国において、子会社2社を当期から連結したことに伴い貸付金利息が増加したほか、親愛貯蓄銀行が子会社3社から貸付事業を譲り受けたため、銀行業における営業収益が増加。

営業利益(損失)

(単位：億円)



販売費及び一般管理費と営業費用の増加の影響を受け減少

KCカードにおける利息返還損失引当金繰入額の増加、親愛貯蓄銀行における不良債権整理に伴う売却損の計上や貸倒引当金の積み増し等の一時的要因により減少。

四半期(当期)純利益(損失)

(単位：億円)

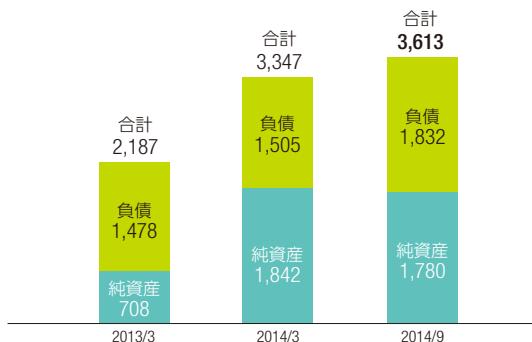


経常損失に加え、親愛貯蓄銀行の特別損失計上により減少

主に親愛貯蓄銀行において、不良債権処理に伴う一時的な損失計上により経常損失となったことに加えて、のれんの減損等による特別損失を計上したため減少。

負債純資産合計

(単位：億円)



総資産 現金及び預金や関係会社株式等が増加

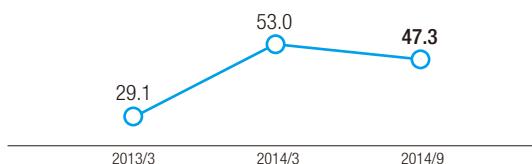
カードキャッシングを主として割賦立替金が前期末比36億円減少したうえ、有価証券が49億円減少。しかし、親愛貯蓄銀行において、受信業務が好調に推移したことにより現金及び預金が345億円増加したほか、LCDグローバル・インベストメント社の株式取得により関係会社株式が75億円増加し、総資産は266億円の増加となった。

負債 銀行業における預金が増加

長期借入金(1年内返済予定を含む)が前期末比123億円減少したうえ、利息返還損失引当金が11億円減少。しかし、親愛貯蓄銀行において受信業務が好調に推移し銀行業における預金が増加したことから、負債は327億円の増加となった。

自己資本比率

(単位：%)

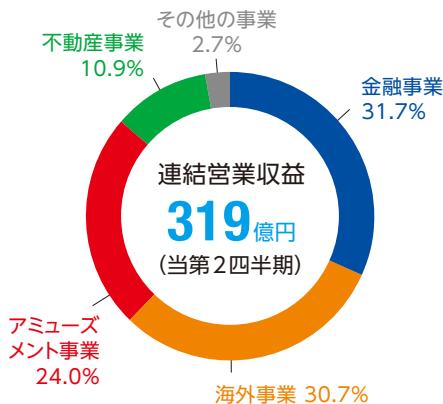


純資産 利益剰余金とその他有価証券評価差額金が減少

為替換算調整勘定は前期末比16億円の増加。しかし、四半期純損失の計上等により利益剰余金が43億円減少。また、Jトラストアジアの保有するその他有価証券の時価下落等からその他有価証券評価差額金が36億円減少し、純資産は61億円の減少となった。

セグメント情報

海外事業は営業力強化や収益構造改善のための施策により大幅増収も、費用先行により利益が減少



金融事業

営業収益は前年同期比16.8%減の101億円。主に割賦立替金手数料、貸付金利息、その他の金融収益等が減収となった。セグメント利益は、減収とKCカードにおける利息返還損失引当金繰入額の増加の影響を受け、大幅減益となった。

営業収益



セグメント利益



海外事業

営業収益は前年同期比92.4%増の98億円。当期から韓国の子会社2社を連結したほか、子会社の貸付事業を親愛貯蓄銀行に譲渡するなど韓国事業の営業力強化と収益構造の改善のための施策を行った結果、セグメント損失は拡大となった。

営業収益



セグメント損失



アミューズメント事業

営業収益は前年同期比11.8%減の76億円。販促・ブランディング活動の積極展開により顧客単価及び集客数の下支えには奏功したものの、消費税増税による個人消費減退の影響を補うには至らず、営業収益、セグメント利益ともに減少となった。

営業収益



セグメント利益



不動産事業

営業収益は前年同期比71.0%増の34億円。消費税増税前の駆け込み需要の集中により一部の完工引渡しに年度を跨いだほか、販売戸数を堅調に伸ばしたことや法人向け不動産案件の賃貸収入の安定により大幅増収、増益となった。

営業収益



セグメント利益



その他の事業

営業収益は前年同期比6.7%増の8億円。報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にコンピュータの運用及び管理業務、ソフトウェア受託開発及び運用指導業務、印刷関連業務、設計・施工事業に区分されている。

営業収益



セグメント利益(損失)



企業データ

(2014年9月30日現在)

会社の概要

商号	Jトラスト株式会社
資本金	535億87百万円
設立	1977年3月
	〒105-0001
本社所在地	東京都港区虎ノ門1丁目7番12号 虎ノ門ファーストガーデン
電話番号	03-4330-9100 (代表)
事業内容	ホールディング業務
連結従業員	2,235名

役員

代表取締役社長	藤澤 信義
代表取締役専務	足立 伸
取締役	三吉 誠
取締役	常陸 泰司
取締役	千葉 信育
社外取締役	五十嵐 紀男
社外取締役	水田 龍二
社外取締役	阿武 一治
常勤監査役	大西 眞夫
常勤社外監査役	山根 秀樹
監査役	井上 允人
社外監査役	内藤 欣也

株式の状況

発行可能株式総数	240,000,000株
発行済株式の総数	118,453,554株

(注) 新株予約権の行使により発行済株式の総数が67,720株増加しました。

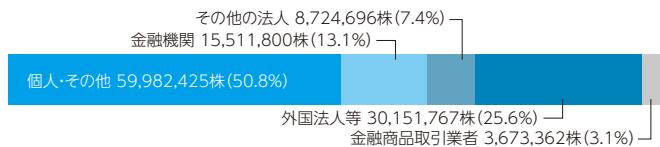
株主数	20,518名
-----	---------

大株主 (上位10名)

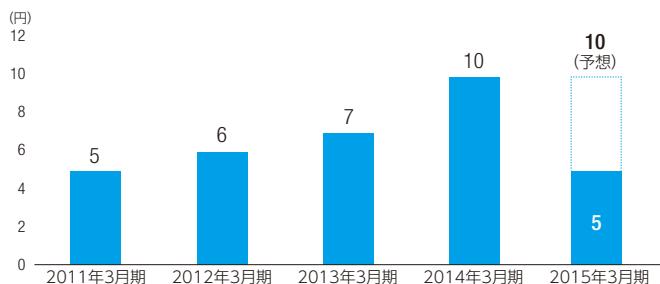
株主名	株式数(株)	持株比率(%)
藤澤信義	29,963,744	25.4
TAIYO FUND, L.P.	11,192,400	9.5
NLHD株式会社	7,435,000	6.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,930,800	3.3
J.P.Morgan Whitefriars Inc. London Branch	3,022,400	2.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,965,000	2.5
株式会社西京銀行	2,890,000	2.4
株式会社整理回収機構 整理回収銀行口	2,640,000	2.2
TAIYO HANEI FUND, L.P.	2,533,400	2.1
TAIYO RPMI FUND, L.P	1,407,500	1.2

(注) 持株比率は、自己株式数(409,504株)を控除して算出しております。

所有者別株式分布状況



1株当たり配当金の推移



(注) 2012年6月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。上記グラフは、当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を記載しております。

株主様アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

株主の皆様への情報開示の充実に努め、当社の経営をより一層ご理解いただけるIR活動を行っていきたく考えています。ぜひアンケートにご協力ください。

アンケートサイト(画面)への接続方法

株主ひろば

検索

株主ひろば



ご回答方法

アンケートサイト(<http://kabuhiro.jp>)画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー(8508j)を入力して回答画面にお進みください。

URL <http://kabuhiro.jp> アンケートナンバー 8508j

アンケート実施期間: 平成27年1月31日まで

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領 株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(http://www.jt-corp.co.jp/)に掲載いたします。なお、事故その他やむを得ない事由により、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

メール配信サービスのお知らせ

2013年12月1日より、メール配信サービスが変更となりました。

既にご登録いただいております株主の皆様には、大変お手数をお掛けいたしますが、当社WEBサイト、もしくは下記のQRコードより再度お手続きくださるようお願い申し上げます。また、ご登録がお済みでない株主様も、当社をよりご理解いただくためにも、ぜひこの機会にご登録くだされば幸いです。お申し込みをお待ちしております。

メール配信サービスのお申し込みは、

当社ホームページ<http://www.jt-corp.co.jp/> にアクセスしていただき、『トップページ』の「メール配信サービス」ボタンからお入りください。



ニュースリリース

IR情報

説明会動画

IRイベント

TOPページの「メール配信サービス」をクリック!



携帯メルマガのお申し込みは、右のQRコードを読み取り、必要情報を入力のうえ送信してください。

単元未満(1株から99株) 株式をお持ちの株主様へ

買取または買増をご請求いただくことで、単元未満株式を売却または1単元にすることができます。詳細につきましては下記までお問い合わせください。

- 証券会社などの口座に登録された株式
→ 口座開設の証券会社などへ
- 特別口座に登録された株式
→ 上記の三菱UFJ信託銀行株式会社へ

買取・買増制度の例(160株ご所有の場合)



JトラストグループのCSR活動

「日本盲人マラソン協会」との関わり

Jトラストでは、認定特定非営利活動法人 日本盲人マラソン協会(通称：JBMA)の活動を応援しています。

JBMAではスポーツ活動等による視覚障がい者の健康保持、並びに障がい者と健常者が盲人マラソンを介して育む共生社会、ノーマライゼーションの実現を目指した活動に賛同し、応援しています。

視覚障がいのあるランナーの活躍の場が少しでも増えれば、またロープを介して援助するパートナー(伴走者)を少しでも支援できればとの思いから、今年より寄付を行っています。



韓国における社会貢献活動

Jトラストは、親愛貯蓄銀行などの関連会社が拠点を置く韓国においても、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

その一環として、2014年10月、お年寄りとその孫や視覚障がい者が乗馬やジップラインなどの多彩なプログラムを楽しむイベント「特別な遠足」を開催し、現地関連会社の従業員がボランティアとして参加しました。



Jトラスト株式会社

東京都港区虎ノ門1丁目7番12号 虎ノ門ファーストガーデン
03-4330-9100 (平日 9:00 ~ 18:00)

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

